

保育者養成教育における模擬保育への ICT 活用の検討

Research on the Use of ICT for Simulating Childcare in Nursery teacher training Education

中原 大介^{*1}, 佐藤 貴之^{*2}, 坂本 毅啓^{*2}

Daisuke NAKAHARA^{*1}, Takayuki SATO^{*2}, Takeharu SAKAMOTO^{*2}

^{*1}福山平成大学

^{*2}北九州市立大学

^{*1}Fukuyama Heisei University

^{*2}University of Kitakyushu

Email: nakahara@heisei-u.ac.jp

あらまし：これまで筆者らは、社会福祉士養成教育において動画による模擬面接用の教材開発・実践を行ってきた。本稿では保育者養成教育の中で行われてきた模擬保育に注目し、これまで開発してきた教材を活用する為の検討を行った。

キーワード：保育者養成，福祉，模擬保育，ICT 活用，実践力

1. はじめに

現在、国の施策として「待機児童解消加速化プラン」の確実な実施のため、厚生労働省は「保育士確保プラン」を掲げ、保育士の確保に取り組んでいる。保育士の量的な確保はもちろん、「国家資格としての保育士の専門性の向上」つまり質的な向上も同時に求められている。⁽¹⁾本研究では筆者らが行ってきた福祉専門職養成に関する ICT 活用の研究をベースとし、保育者（本稿において保育士・幼稚園教諭・保育教諭を総称して保育者と呼ぶ）養成教育、とりわけ演習科目として実践力の向上に資する「模擬保育」への ICT 活用を検討することを目的とする。

2. 保育者養成教育と実践力

2.1 保育者養成教育と模擬保育

保育者の質向上に必要な保育実践力については様々な研究がなされている。例えば「学んだ保育知識や技術、考え方を基本にしながら、各保育現場での異なる環境や子ども達の実態に踏まえて子どもを援助することができる力」⁽²⁾や「保育について学んだ知識や考え方をもとに、自分がどのようなスタンスで保育者として子どもに向かうのかを意識したうえで、自分の保育技術をもって子どもの遊びを援助することができる力」⁽³⁾という考え方などがある。

現行の保育者養成教育は「保育士養成課程」と「幼稚園教諭教職課程」がある。それぞれの資格、免許取得に必要なカリキュラムの概略を図 1 に示す。

保育実践力の向上には現場に出て実施する「実習」が大きな役割を担っているが、加えて平成 21 年度より教職課程においては、教科目「教職実践演習」が設置された。その科目の中で多くの養成校が取り組んでいるとい考えられる内容が「模擬保育」である。また、図 1 の教科目のうち、とりわけ「保育の内容・方法の理解に関する科目」、「保育内容の指導法」、「実習指導」、「実践演習」に関しては、その教授の方法

として「模擬保育」を一部取り入れている養成校が多々見受けられる。



図 1 幼稚園教諭養成課程と保育士養成課程⁽⁴⁾

2.2 模擬保育と ICT 技術

これまでに模擬保育における ICT 技術の活用を検討したものとしては、ビデオカメラによる動画撮影などが代表的である。

模擬保育をビデオカメラで撮影を行い、模擬保育終了後、視聴しながら評価を行う研究が多く見られ、保育・教育の現場では積極的に取り組まれてきたと考えられる。⁽⁵⁾

また、イントラネット上で模擬保育の様子を動画で取り込み、学習者が相互評価を行うことのできるシステムの開発⁽⁶⁾や動画撮影を行った上で、PC 上でコメントをつけるという取り組み、教材開発を行っている養成校もあった。⁽⁷⁾

また、文部科学省はビデオ記録の特徴として表 1 に挙げる長所と短所を指摘している。

表 1 ビデオ記録の特徴⁽⁸⁾

長所	短所
・繰り返し再生でき、確認ができる。	・ビデオカメラのアンクルから外れた事象に関する情報が欠如(撮影者の意図や編集が関与する)。
・その場にいるような臨場感。	・個々の細やかな音声が入りにくい。
・情報量の多さ(身体、動き、表情、空間配置、活動の流れや展開などの時間)。	・ビデオカメラがあることによる影響。
・第三者と共有しやすい。	・撮影者、機材が必要。

3. 教材の概要

筆者らはこれまでの研究において、社会福祉士養成カリキュラムの「相談援助演習」におけるコミュニケーションスキル獲得を目指した教材開発を行ってきた。本教材は、授業内で実施された模擬面接に対し学生が評価を行うシステムとして運用している。

Moodle を活用し、録画データを学生がパソコンやスマートフォンで閲覧し、面接方法のチェックやコメントが入力できるようになっている。教材のインタフェースを図 2 に示す。



図 2 パソコン版インタフェース

客観的な自己分析、他者を評価することで他者から学ぶという効果、第三者としてのメゾの視点を得られる、教室環境からの解放などの効果が得られた。

4. 本研究によって期待される効果と課題

保育士養成教育における模擬保育にこれまで筆者らが開発した教材を使用した際、従来のメリットに加え以下の 2 点について高い効果が得られるのではないかと考える。

4.1 「ねらい」と「内容」の理解

模擬保育や実習などで必要とされる「指導案」の作成において初学者が理解困難であるのが「ねらい」と「内容」である。模擬保育の場面において、実際は一つの領域だけでなく、様々な保育内容の領域の「ねらい」と「内容」が同時に複雑に絡み合っているものが大半である。一つの保育実践(模擬保育)を繰り返し見ることで様々な領域における「ねらい」と「内容」を発見しやすい、また教授しやすいという利点があると考えられる。

その為には指導案立案時に、指導を行う教員と実践者が「ねらい」と「内容」について理解し、閲覧

者に開示するシステムを現行システムに実装する必要があると思われる。

4.2 模擬保育指導案との容易な比較

模擬保育は目の前で行われる先生役と子ども役とのやりとりを見ることになるが、本システムの導入で事前に立てられた指導案と実践内容の比較を時系列に沿って容易に行う事が可能となる。

その為には動画と指導案とを時系列で確認できるよう、リンクさせたシステムを開発・実装する必要があると考えられる。

5. おわりに

本稿では、これまでの筆者らの研究によって作成された教材の保育者養成教育における模擬保育への活用を検討してきた。その結果、従来のビデオ撮影や PC を活用した模擬保育の実践におけるメリットに加え、さらなる実践力の向上に資するシステムが開発できると考えた。その為にこれまで開発してきた教材を模擬保育に適應するための調整を行い、実践・改良を行っていく必要があると考える。

謝辞

本研究は JSPS 科研費 26330403 の助成を受けたものである。

参考文献

- (1) 厚生労働省：“保育士確保プランの公表”，<http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-0119070000-Koyoukintoujidoukateikyoku-Hoikuka/0000070942.pdf> 2015/06/08
- (2) 新實広記：“保育者養成課程における地域連携を活用した造形表現科目の授業改善—保育実践力の育成を目指した取り組み—”，東方学誌, Vol.43, No.1, p121 (2014)
- (3) 松山由美子：“保育者養成における「保育実践力」育成のためのカリキュラムの構成と評価 (2)：「理論と実践の融合」についての一考察”，四天王寺大学紀要, 第 48 巻, p.121 (2009)
- (4) 厚生労働省：“幼稚園教諭免許状と保育士資格に関する資格要件の比較”，第 7 回保育士養成課程等検討会参考資料 6, (2012)を元に筆者作成
- (5) 上村晶：“実習事前指導における模擬保育ビデオを活用したカンファレンスの実際と効果”，高田短期大学紀要, 第 28 巻, pp.89-100(2010)
- (6) 大森雅人, 中西利恵：“イントラネットによる保育者養成教育支援システムの研究：動画配信機能を持つ共同学習環境の開発”，日本保育学会大会研究論文集, 第 54 巻, pp.170-171(2001)
- (7) 大阪大谷大学：“現代 GP 実践力をつける実習教育統合支援システム”，<http://www3.osaka-otani.ac.jp/gp/> 2015/06/08
- (8) 文部科学省：“幼稚園教育指導資料第 5 集 指導と評価に活かす記録”，チャイルド本社, 東京, p.114 (2014)